

＜要求を通すための問題行動への対応方法＞

子どもは日常生活の中で、良いことも、そうでないことも、いろいろな経験を通して学習しています。今回は子どもの「自分の要求を通すための問題行動」についてお話しします。大人が対応を間違えると、子どもは間違った方法で要求を通す方法を学んでしまいます。

例：お菓子をねだる子ども



この子どもは「泣けばほしいものが手に入る」と学習してしまいました。今後も要求を通すために、ひっくり返って泣くことをくり返します。

このような問題行動への対処方法は、「方針を曲げない」ことです。一度「泣けばほしいものが手に入る」を経験している子は、泣いても要求が通らないと、さらに激しく泣きます。しかし、ここで負けてはいけません。次は最初から泣き方がパワーアップします。大人が方針を貫き通し、子どもが諦めて泣き止むことができたときに「よく我慢できたね」と笑顔でほめてあげましょう。「我慢したらほめてもらえた」をくり返し経験すると、しだいに最初から泣かなくなってくる。



事前に予告と約束をする対処方法も有効です。事前に予告と約束をし（最後に「わかった？」と確認することが大切です）、我慢できた時にほめると、その行動が増えています。



「泣いたら外に出す」という約束を守らないと、「言うだけで実行はしない」と学習し、問題行動が改善されません。言ったからには実行する覚悟が必要です。逆に「できないことは約束しない」ことにも気を付けなければいけません。